

2017年7月、二つの高層湿原 白木峰&天生湿原（靱糠山）

泉州労山『やまなかま8月号』より転載

泉州労山 大西清見

<日程> (マイカーにて) 7月7日(金) 大阪一名神自動車道・東海北陸自動車道一飛驒清見IC一高山・飛驒一富山県八尾市杉ヶ平キャンプ場(バンガロー泊) / 8日(土) 杉ヶ浦キャンプ場一白木峰登山口…浮島の池…白木峰…白木峰登山口一キャンプ場(歩行時間:約4時間50分) / 9日(日) 杉ヶ浦キャンプ場一岐阜・白川郷一天生峠…天生湿原…靱糠山…天生峠一白川郷一帰阪(歩行時間:約4時間40分)

<参加者>大西清見・青木真澄・大西博美

梅雨の晴れ間をねらって富山(白木峰)、奥飛驒(天生湿原)の高層湿原に行ってきました。この二つの湿原は、直線距離にして約25km、アクセスはかかるが一挙に二日間で回ることができます。

7月8日(土) 晴れ、白木峰(1,596m) : 白木峰は飛驒市と富山市(八尾町)にまたがる、飛越国境上の地元で人気の山です。夏には山頂付近のニッコウキスゲと高層湿原を求めて多くの登山者が殺到します。バンガローを午前6時に出発、マイカーで林道を登り6時40分に白木峰駐車場に到着、20台スペースの駐車場には辛うじて確保できました(下山時には約100台の林道駐車がありました)。白木峰は昨夏に2回登りましたが、今回も小白木往復はパスして、白木峰周回コースをとりました。登り始めていきなりイワイチョウやウラジロヨウラクなどの群生に出会えて楽しい高層湿原への山歩きが待っていました。白木峰荘(避難小屋)から白木峰への草原も高山植物を多く見ることができます。昨夏、満開だったニッコウキスゲはチラホラ咲きで、今回は一週間ほど早かったようです。山頂から北東の浮島の池にかけては池塘がみられ、360度の大自然を楽しむことができます。この日は劔岳の雄姿や槍・穂高連峰も眺望できました。行き止まりの浮島の池は二つの池塘で形成され、純白の穂をもつワタスゲの群生やモウセンゴケが早朝の露で輝いていました。池塘のベンチから北アルプスや御嶽山、白山を眺め、気分を爽やかにしてくれる白木峰に感謝するひと時でした。帰路は白木峰の頂上を踏んで周回、その他アカモノ・ツマトリソウ・ゴゼンタチバナ・コイワカガミ・ショウキラン・コメツツジなどの高山植物たちが私たちの目を楽しませてくれました。白木峰から南西の小白木峰(1,437m)へは、地元の人から「登山者が少なく、金剛堂山を眺める池塘もあっていいコースですよ」と聴き、次回の秋にでも行ってみることにします。



最初に出会ったのがイワイチョウ



池塘で北アルプスを眺める

7月9日（日）晴れのち曇り、天生湿原～靱糠山（1,744m）：岐阜県飛騨市（旧河合村）と白川郷にまたがる標高1,774mの山が靱糠山、その麓の天生峠から登山道を南に入ると、ブナなどの原生林や広大な天生湿原があります。天生湿原はすっかり気に入って秋を含めて4度訪れました。今回はミズバショウの季節が終わったあとか、天生峠の駐車場には数台しかありませんでした。しかし、ミズバショウに変わったワタスゲのシンプルな湿原もなかなかのものでした。

天生峠の駐車場が登山口で、ここで湿原の環境・景観保全の協力金500円を支払ってから登ることになります。登山口かすぐに緑の濃い登山道となり、新鮮な自然の香りについステップも弾んできます。歩いて約30分、ウグイスなどの鳥たちにも迎えられながら天生湿原に到着。そこにはミズバショウの群生から変わった、やはりまた違った美しい森の中に白いワタスゲの湿原の世界が広がっていました。質素な雰囲気です。さらに湿原からカラ谷へ行くとツマトリソウ、サワラン、ゴゼンタチバナ、モミジカラマツの花たちにも出会い、カメラの撮影や手帳にメモをとっていく楽しいひと時もありました。カラ谷の中間点にはカツラ門と呼ばれる、見事なカツラの巨木も見られ、まるで幻想的な門のように聳えています。この巨木へは立ち入り禁止になっており、周辺の緑も更に深まっていったように思います。この日往路で出会った花は、他にヒメヘビイチゴ、クワガタソウ、オオバミゾハウズキ、クルマムグラ、キヌガサソウ等と、同行の山仲間には花の名前をききながら靱糠山へのあつという間の歩行3時間の登山でした。

靱糠山では北アルプスへの眺望を楽しんで、下山はブナ探勝路の尾根コースをとりました。コース名の通りブナの新緑が美しい登山道ですが、一部土止め用の階段が作られているのが惜しいと思いました。山頂から1時間ほど下ったカラ谷分岐にも、ひっそりと広がるもう一つの「ミズバショウ群生地」がありましたが、ここもワタスゲやニッコウキスゲの湿原に変わっていくようです。湿原の中には入れないのが残念ですが、ベンチもあるので緑豊かな森と湿原をゆっくり見とれることができました。下山後の登山口で天生湿原の監視委員会の方に花や湿原の自然をお聴きし、「花は一週間ごとに様相が変わってきます。6月初めのミズバショウだけでなく、他の花の季節も美しいので何度も足を運んでほしい」の一言で、また8月にも来てみたいと思ったのでした。



2013年6月の天生湿原、一面水芭蕉
でした



2017年7月、すっかりワタスゲの
世界に